

注意事項

1. 試験問題の数は31問で解答時間は正味1時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) 各問題にはaからeまでの五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを一つ選び、次の例にならって答案用紙に記入すること。

(例) 101 応召義務を規定しているのはどれか。

- a 刑法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

正解は「c」であるから答案用紙の **c** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
101	(a)	(b)	●	(d)	(e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ ●
(d)	(d)
(e)	(e)

- (2) 1問に二つ以上解答した場合は誤りとする。

- 1 医療機関に対する患者の権利でないのはどれか。
 - a 治療法を選択する。
 - b 診療録の記載内容を知る。
 - c セカンドオピニオンを得る。
 - d 診療報酬明細書の内容を知る。
 - e 疾病に伴う逸失利益の補償を得る。

- 2 施設内倫理委員会の役割に含まれるのはどれか。
 - a 施設職員の倫理規定の策定
 - b 施設職員に対する接遇教育
 - c 地域住民に対する倫理教育
 - d 施設内の患者に起きた感染事故の原因調査
 - e 施設内の患者を対象とした研究の倫理審査

- 3 死体検案書について正しいのはどれか。
 - a 死因統計の資料となる。
 - b 歯科医師も交付できる。
 - c 直接死因は警察官が決定する。
 - d 検案日と検案書発行日は同一である。
 - e 検案をした医師以外の医師も交付できる。

- 4 体重減少が摂食量の低下によらないのはどれか。
- a うつ病
 - b 食道癌
 - c 消化性潰瘍
 - d アルコール依存症
 - e 甲状腺機能亢進症
- 5 吐血が主訴となるのはどれか。
- a 食道静脈瘤
 - b 急性腸炎
 - c 腸閉塞
 - d 急性胆嚢炎
 - e 急性膵炎
- 6 産褥について正しいのはどれか。
- a 血栓塞栓症の発症は妊娠中よりも多い。
 - b 産褥出血の原因は頸管裂傷が最も多い。
 - c 初乳中の蛋白質は成熟乳中よりも少ない。
 - d 産褥熱の起因菌はグラム陽性球菌が多い。
 - e 赤色悪露—黄色悪露—褐色悪露—白色悪露と変化する。

7 婦人科診察時の双合診で正しいのはどれか。

- a 腔鏡診の前に行う。
- b 膀胱を充満して行う。
- c 正常な卵管は管状に触れる。
- d 正常な子宮は手拳大に触れる。
- e 内診指と腹壁上の外診手とで触診する。

8 血球検査で正しいのはどれか。

- a 貧血のスクリーニング検査になる。
- b 採血にはヘパリン入り採血管を用いる。
- c 採血後には採血管を氷上に静置する。
- d 平均赤血球容積はヘモグロビン値/赤血球数で求める。
- e 網赤血球数は塗抹 Giemsa 染色標本で測定する。

9 ある疾患の検査前確率が 20 % であり、その後の検査結果の尤度比が 4 の時、検査後確率はどれか。

- a 5 %
- b 20 %
- c 24 %
- d 50 %
- e 80 %

10 労作性狭心症で正しいのはどれか。

- a 発作は空腹時に起こる。
- b 痛みは呼吸で変動する。
- c 痛みは数秒間持続する。
- d 痛みは頸部や肩に放散する。
- e 針で刺すような痛みである。

11 清潔操作が必要ないのはどれか。

- a 腰椎穿刺
- b 皮膚切開
- c 電氣的除細動
- d 胸腔ドレナージ
- e 中心静脈カテーテル挿入

12 腰椎穿刺で誤っているのはどれか。

- a 側臥位で行う。
- b 頸、背中、腰および膝を屈曲させる。
- c 第3～4腰椎棘突起間を穿刺する。
- d 針先は尾側へ向ける。
- e 終了後安静を指示する。

- 13 肥満患者の減量に対する支援効果が最も期待できるのはどれか。
- a 減量するまで通院間隔を延ばす。
 - b 体重が減らない理由を問いただす。
 - c できるだけ高い目標を設定させる。
 - d 体重が少しでも減少したことを褒める。
 - e 減量に失敗して落胆した自分を想像させる。
- 14 医師の職業倫理としてふさわしくないのはどれか。
- a 社会性
 - b 人間性
 - c 生涯学習
 - d 利他主義
 - e 営利主義
- 15 「治すこと 時々、和らげること しばしば、慰めること いつも」との名言を遺した近代外科学の父と呼ばれているのは誰か。
- a Hippocrates (ヒポクラテス)
 - b Robert Koch (ロベルト・コッホ)
 - c Ambroise Paré (アンブロワズ・パレ)
 - d Claude Bernard (クロード・ベルナール)
 - e Edward Jenner (エドワード・ジェンナー)

16 48歳の男性。突然の意識障害のため搬入された。意識は昏睡状態。瞳孔は両側とも散大し、対光反射が消失していた。頭部単純CTでくも膜下出血と診断し、人工呼吸器による治療を続けたが、来院3日後に臨床的脳死状態と判定した。患者の家族と担当医との会話を以下に示す。

医師 ①「説明をお聞きになりたい家族の皆様はそろっていますか」

家族 「親戚は全員集まっています」

医師 ②「これまで最善と考えられる治療を行ってきました」

家族 「ありがとうございます」

医師 ③「残念ですが、今後、治療によって意識が戻る可能性はありません」

家族 「運命なので仕方ありません」

医師 ④「患者さんは意識が回復しないようなら安楽死を望んでいましたか」

家族 「よく分かりませんが、はっきりとは言っていませんでした」

医師 ⑤「患者さんは臓器提供意思表示カードをお持ちだったでしょうか」

家族 「運転免許証に貼ってあったように思いますので探してみます」

医師の発言で適切でないのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

17 43歳の女性。倦怠感と前頸部腫脹とを主訴に来院した。3か月前からの動悸と発汗とが次第に増強し、1か月前から倦怠感と易疲労感とが加わるとともに前頸部の腫脹に気付いた。既往に特記すべき疾患はない。意識は清明。身長161 cm、体重53 kg。体温37.0℃。呼吸数18/分。脈拍104/分、整。血圧124/64 mmHg。

認められる症候はどれか。

- a 体重増加
- b 皮膚乾燥
- c 眼球陥凹
- d 手指振戦
- e 腱反射低下

18 8か月の乳児。発熱を主訴に来院した。抗菌薬を服用しているが、4日間39℃台の熱が続いている。鼻汁、咳嗽、発疹および下痢は認めない。機嫌は不良であるが、水分の摂取はできている。白血球12,200。CRP 3.2 mg/dl。

まず行うのはどれか。

- a 浣腸
- b 耳鏡検査
- c 骨髄検査
- d 脳脊髄液検査
- e 心エコー検査

19 42歳の男性。腹痛を主訴に来院した。昨日から悪心とともに腹痛が上腹部に出現し、次第に増強しながら右下腹部に局限してきた。身長172 cm、体重67 kg。体温37.6℃。脈拍76/分、整。血圧136/72 mmHg。血液所見：赤血球452万、白血球11,800。

腹部所見で認めないのはどれか。

- a 圧痛
- b 反跳痛
- c 筋性防御
- d 腹部膨隆
- e 腸雑音低下

20 生後2週の新生児。噴水状の嘔吐を主訴に来院した。皮膚と舌とは乾燥し、大泉門の陥凹を認める。腹壁を通して胃の蠕動を認め、右腹部に腫瘤を触知する。

最初に行うべき画像検査はどれか。

- a 腹部エックス線単純撮影
- b 腹部超音波検査
- c 腹部単純MRI
- d 腹部単純CT
- e 核医学検査

21 53歳の男性。狭心症の精査目的で通院中である。外来の待合室で様子がおかし
くなった。意識はなく、あえぐような不規則な呼吸をしている。

直ちに持参するよう依頼するのはどれか。

- a 自動体外式除細動器 (AED)
- b 心エコー装置
- c 人工呼吸器
- d 心臓ペースメーカー
- e 胸腔ドレナージチューブ

22 33歳の女性。急性の呼吸困難のため搬入された。3年前に喘息を発症し、近医
で治療を受けていた。最近鼻閉がみられるので耳鼻咽喉科を受診したところ鼻ポ
リープを指摘された。本日歯痛が出現したので、家にある痛み止めを服用したとこ
ろ重篤な呼吸困難が出現した。入院後直ちに酸素吸入と β 刺激薬投与を行った。

次に投与するのはどれか。

- a 抗菌薬
- b 抗コリン薬
- c 喀痰溶解薬
- d 抗ヒスタミン薬
- e 副腎皮質ステロイド薬

23 28歳の女性。激しい頭痛を主訴に来院した。19歳ころから拍動性の右側の頭痛を自覚している。頭痛は嘔吐を伴い、吐き終わると少し楽になると言う。頭痛持続中は強い光と大きな音とがつかなく、暗い部屋でじっとしていることが多かった。大学生のころには頭痛は定期試験が終了した後などに限られていたが、卒業後就職したころから週に1回は出現するようになり、欠勤することが多い。最近、月経開始2日前から開始2日後にかけて激しい頭痛が出現している。頭痛出現に先行する症状は特にない。神経学的所見に異常はない。母親にも同様の頭痛がある。

考えられるのはどれか。

- a 緑内障
- b 片頭痛
- c 頸椎症
- d 副鼻腔炎
- e 緊張型頭痛

24 45歳の女性。3週間からの抑うつ気分と自責感を主訴に来院した。

診断に重要な症候はどれか。

- a 不眠
- b 食欲亢進
- c 皮膚瘙癢感
- d 下肢脱力感
- e 不正性器出血

25 56歳の男性。健康診査で高血圧を指摘され来院した。特に自覚症状はない。入院歴はない。飲酒を20歳から始め、この15年間は日本酒3合/日。身長160cm、体重70kg。血圧140/88mmHg。尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液生化学所見：空腹時血糖123mg/dl、総コレステロール218mg/dl、AST60IU/l、ALT51IU/l、 γ -GTP160IU/l(基準8~50)。

対応として適切なのはどれか。

- a 自宅安静が必要であることを説明する。
- b 入院加療が必要であることを説明する。
- c 運動制限を指導する。
- d 高蛋白食を指導する。
- e 節酒を指導する。

次の文を読み、26、27の問いに答えよ。

19歳の女性。5日前からの嘔気と嘔吐とを主訴に来院した。

現病歴 : 症状は早朝と空腹時とに悪化する傾向がある。下痢や腹痛はない。

既往歴・生活歴 : 特記すべきことはない。最終月経は35日前から5日間。

現症 : 意識は清明。身長162 cm、体重58 kg。体温36.8℃。脈拍72/分、整。血圧102/68 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知せず、圧痛や抵抗を認めない。

検査所見 : 血液所見と血液生化学所見とに異常を認めない。

26 次に行う検査はどれか。

- a 妊娠反応
- b 頭部単純 CT
- c 腹部エックス線単純撮影
- d 上部消化管内視鏡検査
- e Hamilton うつ病評価尺度

27 嘔気と嘔吐とが改善しないため 1 週後再受診した。意識は清明。体重 56 kg。体温 37.2℃。脈拍 108/分、整。血圧 92/60 mmHg。皮膚と口腔粘膜とは乾燥している。甲状腺に腫大と圧痛とを認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知せず、圧痛や抵抗を認めない。

最も考えられるのはどれか。

- a 貧血
- b 脱水
- c 肺水腫
- d 腸閉塞
- e 胃食道逆流

次の文を読み、28、29の問いに答えよ。

42歳の女性。不眠と頭痛とを主訴に来院した。

現病歴 : 半年前に職場で管理職に昇進したころから不眠が出現した。疲れやすくて食欲もなく、趣味の社交ダンスもやめてしまった。この1か月は、夕方になると鈍い痛みを後頭部に感じ仕事に集中できなかった。部下に迷惑をかけているので思い切って仕事を辞めようかとも考えた。子供はおらず夫と二人暮らしである。心配した夫に病院に行くように強く勧められたため思い切って来院した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

家族歴 : 母親が糖尿病で通院治療中。

現症 : 意識は清明。身長163 cm、体重47 kg。脈拍72/分、整。血圧104/72 mmHg。眼瞼結膜に貧血を認めない。甲状腺腫大はない。頸部リンパ節は触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腿に浮腫を認めない。筋力低下はなく、深部腱反射は正常である。

28 医師が医療面接でこの患者にかける言葉のなかで、共感的態度を表しているのはどれか。

- a 「職場の人間関係がストレスなのですね、私も経験があります」
- b 「睡眠不足だと頭も痛くなりますし集中力も落ちますよね」
- c 「仕事を辞めようと思うほど支障をきたしているのですね」
- d 「子供さんがいない生活はずいぶん寂しいでしょうね」
- e 「この半年の間に一度も病院に行っていないのですか」

29 解釈モデルを尋ねる質問はどれか。

- a 「以前と比べて体重が減ってきてはいませんか」
- b 「死んだほうがましだと思えることはありませんか」
- c 「普段定期的に飲んでいるお薬があったら教えてください」
- d 「何かご質問があるようでしたらおっしゃってください」
- e 「どうして眠れなくなったのか思い当たることはありますか」

次の文を読み、30、31の問いに答えよ。

27歳の経産婦。分娩後の出血と意識レベルの低下のため搬入された。

現病歴 : 妊娠38週時に陣痛が発来し、分娩のため近医に入院した。陣痛が増強し、入院18時間後、吸引分娩によって3,040gの男児を娩出した。胎盤娩出直後から凝血塊を混じる出血とともに呼吸困難と気分不良とを訴え、次第に意識レベルが低下した。

妊娠・分娩歴 : 1経妊、1経産。25歳時、妊娠39週で回旋異常のため、帝王切開によって3,200gの男児を分娩した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 呼びかけに反応するが意識は混濁している。体温37.3℃。呼吸数38/分、浅。脈拍132/分、整。血圧70/52 mmHg。顔面は蒼白。心音と呼吸音とに異常を認めない。子宮底は臍上1cm、軟、自発痛と圧痛とはない。陰鏡診で膣壁と子宮腔部とに異常はなく、外子宮口から流動性に富む血液の流出が続いている。

検査所見 : 尿所見：蛋白(±)、糖(-)。濃縮尿。

30 診断上重要でない徴候はどれか。

- a 頻 脈
- b 発 熱
- c 低血圧
- d 頻呼吸
- e 意識混濁

31 緊急性が低い検査はどれか。

- a 脳 波
- b 血球検査
- c 交差適合試験
- d 動脈血ガス分析
- e 凝固・線溶検査